

令和5年度大学院授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	23660001	トランスジェニック生物学特論	38	21	55	4.57	すべての項目で科目群平均を超えていた。		
2	23660002	植物生産科学特論	30	16	53	4.23	当該講義の評価は概ね4前後となっており、その多くが科目群平均値をわずかに下回る数値となっており、授業内容について全体的なレベルアップが望まれる。特に、「主體的学修：授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」および「学修意欲：この授業内容についてより深く学びたいか」の項目の評価が芳しくなく、受講者の学習意欲を高める教育的配慮が必要である。	授業で取り扱う主題の一部を修正して、「受講者の関心を集める情報提供」と「受講者の理解度を高めるような明確な解説」に努め、「さらに深い学び」に意識が向くよう促す。	前年度の当該授業においてアンケートへの回答率が著しく低かったのと異なり、回答率を50%超とすることができたので、受講生の考えを比較的良好に反映させていると考えられる。次年度はこの点もさらに改善してゆく。
3	23660101	動物・水圏資源保全学	45	16	36	4.47	まずアンケート回収率が100% (27/27) と周知が徹底できた。評価10項目のうち、8項目で平均以上であった。平均より下回ったのは、共-60の「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」（平均4.0に対して3.9）、共-68の「教員は、授業に十分準備して臨んでいた（平均4.6に対して4.5）」であるが、下回ったと言ってもほぼ平均値であり、総じて平均以上の評価を得たと判断している。また、最も評価が高かった共-53「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」（平均4.5に対して4.8）から、各分担教員の講義の方向性が明確に伝わっていたので学生にとっても講義に集中しやすい環境を構築できていたと考えられる。	評価は講義の質の指標の一つであるため、引き続き次年度も高評価を目指していきたい。	
4	23660102	生殖生物学特論	31	9	29	4.58	全ての評価項目において、科目群平均より高い値を示しており、授業内容は良好であったと考えられる。一方で、「主體的学習」については点数が一番低く（4.2）、科目群平均（4.1）と同程度であった。これは8回の講義を4人で担当しており（一人2回）、学生と過ごす時間が短いためとも考えられる。	アンケートの回収率は、昨年よりも改善されたとは言え、以前29%と低い結果であった。この点を改善するために、講義最終日に時間をとってアンケートを記入させる。	
5	23660109	水族生理学特論	27	8	30	4.60	全ての項目において4.5以上であり、平均もしくはそれを上回っていた。満足度も4.6と比較的良好であった。一方で、回収率が低い値であった。	満足度を含め、全体的により良い効果が得られるように、さらに興味を惹く内容を加えるなどの工夫を検討したい。また、回収率が低いので、回収率の増加に努めたい。	
6	23661002	森林資源管理学	20	10	50	4.70	すべての項目で科目群平均を上回った。特に、共-60「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」と共-3「授業内容に触発されて関係することを自分で学習した」が4.8と高い点であったことは、修士1年の春学期に主體的な学修を引き出すきっかけになったのではないと思われる。	提出者が50%であったので提出を呼びかけること、より深い学びになるように、難易度について担当教員の間で議論し改善する。	
7	23661101	生産環境の科学	25	21	84	4.36	英語での講義ということもあり、「教員の説明が分かりづらかった」との回答がやや多かったものの、評価は概ね大学院平均点と同程度であった。特に、「教員は授業に十分準備して臨んでいた」との評価が高くなっていった。	次年度に向けて、5.の「教員の説明が分かりづらかった」との意見に配慮しつつ、内容を追加とブラッシュアップを行う予定である。	
8	23661102	生産環境データ解析論	24	18	75	4.39	本講義はDX関連科目でデータハンドリングを中心に説明した。「授業の難易度は適切であったか」および「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」が科目群平均より低い結果となった。データベース関係の概要とその利用について幅広く理解してもらうため、内容を若干詰め込みすぎた可能性がある。	講義内容を見直し学生がより理解しやすいように配布資料の改善や演習問題の追加などを行っていきたいと考える。	

令和5年度大学院授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
9	23661103	熱と流れの科学	21	16	76	4.29	質問10項目のうち6項目で「4」と「5」のポジティブ回答が8割を超えており、昨年度と同程度の評価を受けた。本科目が専門性の高い数物系科目であることを踏まえて、動画配信によるオンデマンド型講義を導入したため、双方向性についての評価点が低かったが、自由記述欄回答の中でこの授業形態が高く評価された。また、本科目が学生の所属分野によっては必ずしも必須とはいえ、主体的学習と学修意欲でやや低い評価を受けたが、自身の修士論文のテーマとの関連性だけで評価されるべき項目ではないと考える。	知識の修得・理解を第一義とする専門科目であれば、必ずしも双方向性が必要とはいえ、また受講生からもオンデマンド型講義を支持する意見もあることから、双方向性についての評価点がやや低かったことについて、次回への対応は特に考えていない。本講義の学習目標の達成の観点から、講義内容の説明動画の配信によるオンデマンド式が最も有効と考える。また、主体的な学修意識や学習意欲の向上に繋がるようなコンテンツの提供を考えたい。	
10	23661104	灌漑利水学特論	19	14	74	4.21	ほぼ想定通り	定年退職のために来年の講義分担は無し	
11	23661302	サステナブル資源科学	13	6	46	4.68	全項目において4.5以上であり、高く評価された。各担当教員の熱意が表れている。	次回も同様に行うが、常に新しい情報を入れ講義内容は改訂を行う。	
12	23661307	生物材料設計学	11	6	55	4.53	いずれの項目も科目群平均を上回っており、受講生にとって有益な講義を提供できたと考えている。とくに「教員の説明はわかりやすかった」「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」「教員は、授業に対して熱意を持っていた」「総合的に考えて、現在この授業に満足している」については評価が高く、担当教員（2名）の姿勢が受講生に十分伝わったものと感じている。	今後も、受講生にとって有益となるような講義を提供していきたい。	
13	23663001	生物機能分子化学Ⅰ	33	16	49	3.97	E科目の割には、わかりやすいと答えた学生が多かった点はよかったと思う。双方向性の評価が低かったことについて、対応を進めたい。満足度の低さが何に起因するか明らかでないが、自己学習を触発されるような内容を精選することが鍵かもしれない。	双方向性の向上に務める。E科目故に、専門以外の科目のスライドに和訳がほしいという意見があったが、それを調べることで学習が深まるので、安易に和訳を付けない方がよいと考える。	
14	23663002	生物機能分子化学Ⅱ	19	11	58	4.08	概ね想定した通りの授業ができたと考ええる。	双方向性、学習意欲のスコアが低いため、対策を考える。	
15	23663101	システム生物工学特論	42	20	48	4.39	アンケートの集計によると（47.6%）、どちらとも言えないの問いについては「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」（30%）「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」（40%）と回答する学生が居たため、改良の余地があると思われる。	学生自身の好奇心を自ら学ぶ姿勢を尊重し、学生の声に耳を傾けることを大事にしたい。さらに工夫を凝らし新しい取り組みを積極的に取り入れていきたい。	
16	23663102	バイオリソース特論	22	7	32	3.59	回収率が良くなく（約30%）、評価もそこそこであった。ただ、コメントに「国際コースにのみ資料を掲示していることが複数回あり、人によっては手元に資料がないまま講義を受けることになっていた」というものがあり、教員が国際コースのMoodleのみに資料を上げていたのが理由と考えられる。	今年度初めて分担した教員もあり、周知がうまく行われなかったことが反省点として挙げられるので、講義前に教員間での意識共有を行うべきと考えた。	本科目はEJ科目でMoodle上では2つに分けられている。そのため、日本人学生でも（国際コース）のMoodleに登録した学生や、留学生が日本人に混じって登録したりして、混乱が生じているように思われる。教員も同じ資料を2つのコースにアップロードすることから、上記のミスが起こったようにも思われるので、可能であれば1つのコースにまとめて欲しい。
17	23663103	システム生物化学特論	46	22	48	4.51	全ての項目について4以上であり、各項目は適切であったと評価する。「学修マネジメント：学生と教員とのやりとりには双方向性があった。」と「主体的学修：授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した。」に関して両方とも4.1であり、改善すべきであると分析する。	「学修マネジメント」に関して双方向性をさらに授業に取り入れる。「主体的学習」に関して学生が主体的に学習したくなるような授業内容を検討する。	
18	23663104	環境微生物学特論	17	9	53	4.11	回収率がそう高くなく、科目群平均をやや下回っている。その理由は自由記述に書かれているように、毎週の講義ほぼ全てで課題を課していたため、それに対する不満があったように思われる。	課題を減らすべきかを、担当教員で検討するが、文科省の規則（1単位の授業科目について、授業時間外の学修時間も含めた45時間の学修が必要）を考えれば、時間外学習をどのように担保すべきか考慮する必要がある。	

令和5年度大学院授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
19	23663105	微生物生産工学特論	66	29	44	4.41	本授業は微生物関連の教員4名による講義であり、4名で講義の内容については事前に話し合いを行っている。教員の講義に対する熱意は伝わったものと考えている。	大学院講義のイントロともなるので、できれば大学院生に絞りたいが、今回も10名以上の学部生の受講希望があった。定員も含めて来年度は検討したい。	
20	23663110	細胞機能工学特論	80	48	60	4.31	講義の双方向性に対して、低い評価であった。それ以外は総じて高いポイントを得ているものと考えている。	学生・教員間の双方向性を意図した講義を行うことを計画したい。	
21	23663114	微生物遺伝子資源工学特論	18	6	33	3.86	回収率が3割と悪く、回答をもっと積極的に呼びかけるべきであった。満足度は4.2とそこそこであるが、授業者の特徴が3.3と悪く、うまく熱意が伝わっていないように思える。初回のオリエンテーション時に本授業がアドバンス科目で本格的な遺伝子実験を行った経験のある者向けの講義であることは説明したが、自由記述にあるように課題の内容が難しいとのコメントがあるように、受講生と講義内容のレベルに乖離が生じているように思われる。	前年度より、初回のオリエンテーションで本授業がアドバンス科目で実験経験者のための実験トラブルシューティングのための講義であることを説明しているが、この説明が足りないのか、初心者なので講義内容が分からないという学生が一定数存在する。これら学生に対する周知や内容説明をもっと十二分にシラバス、オリエンテーションで行う必要がある。	
22	23663301	食品機能学特論	34	27	79	4.53	すべてのインタビュー項目で概ね良好との評価を得ている。	次年度以降も同様の講義の実施を行う。	
23	23663303	食品品質学特論	20	16	80	4.20	本講義は、日本人大学院修士課程学生と国際コース留学生修士課程学生を対象とした完全に英語による講義である。オムニバス形式で開催しており毎回英語のPowerPoint資料をもとに英語で解説を行っている。授業の最後には講義に対する質問を英語で書かせて、次回、英語で回答する形式により、問題意識の共有化と学生との双方向性を確保している。日本人学生にとっては内容的には学部講義内容の復習的なものも含まれるので物足りなさを感じているかもしれない。全体的な評価としては、満足度は科目群平均と同じであった。本講義の内容に対しては特に大きな不満はなかったものと思われる。	さらに講義の内容を精査して、理解度を含めるための改善を進める。質問に対する回答は、学生自らが持っていない視点での問題点の確認と理解のためには非常に有効であるので継続して行う。	
24	23663306	機能構造解析学特論	12	10	83	4.59	いずれのインタビュー項目も良好は評価を得ている。	次年度以降も同様の講義を行う。	
25	23665013	生産環境の科学(国際コース)	14	10	71	4.28	アンケートの回収率は70%程度であった。一部項目(シラバス、説明のわかりやすさ、講義の準備)で科目平均よりも点数がわずかに低かったものの、学生からのコメントなどを総合的に分析した結果、学生は本講義内容に十分満足していると判断した。	次年度に向けて、5.の「教員の説明が分かりづかった」との意見に配慮しつつ、内容の追加およびブラッシュアップを行う必要がある。	
26	23665014	サステナブル資源科学(国際コース)	14	10	71	4.24	シラバスの学習目標は明確か、および授業内容についてより深く学びたいか、については3点台の評価であった。他の項目は4以上4.5前後の評価を得たので良好と考える。	オムニバス形式であるので、各担当教員がシラバスの内容を強く意識して、内容の一部を見直す必要がある。また、オムニバス形式であるが、1人の教員が複数回講義をすることにより、学びの興味を持たせられるだろう。	
27	23665017	バイオリソース特論(国際コース)	10	8	80	3.98	回収率80%と高く、評価も同じ授業を受講している日本人学生よりほとんど高かった。これは留学生特有のものか、日本人学生が英語での説明について来れなかったためのものかは不明である。主体的学修や学習意欲の値が低いのが懸念される。	本講義はEJ科目であり、講義内容はある程度理解しているが英語を理解できない日本人学生と、英語は理解できるものの基礎学力に劣る留学生が混在している。彼らの学習効果を均一化して高める必要があると考えられる。特に講義対象が微生物、植物、昆虫、国際ルールと多岐にわたっている為、これら全てを理解させるための工夫が必要である。	
28	23661109	農業情報学特論	19	10	53	4.14	担当講義の評価は全体的に科目群平均を下回る結果となった。難易度が適切ではなかったとのフィードバックがあり、もう少し学生のレベルに合わせた課題設定が必要と感じた。	難しい内容の課題を見直して、もう少し受講生に歩み寄った講義の内容に修正する。	

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。

令和5年度大学院授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	23660003	総合的病害虫管理学	25	10	40	4.48	本科目は教員6名によるオムニバス形式で実施している。アンケート回収率は40%と、全体回収率よりはやや低かったものの、昨年度よりかなり上げることができた。 質問10項目のうち7項目で科目群平均と同値または高い値を示し、全般的に良好な評価を得ることができたと考える。	よりアンケート回収率を上げることができるよう、授業内でのアナウンス等を徹底したい。授業構成・内容については満足度は高いと判断されるので、引き続き双方向性に留意しながら、主体的学修を促せるよう努めたい。	
2	23660004	農業生物学特論	38	13	34	4.31	アンケートの回収率は4割程度と高いとは言えない数値だった。評価の10項目のうち、8項目はおおよそ平均で、2項目が低かった。低かったのは講義の難易度と満足度で、とくに難易度に関しては平均より0.5ポイント低い結果になっていた。	本講義はオムニバス形式（かつE科目）のため、講義の難易度には、教員間で差があるのかもしれない。このアンケートの結果だけでは具体的に難易度にどのような問題点があるのかが不明なため、受講した学生に話を直接聞いてみる必要があるだろう。その上で、講義を改善したい。	
3	23660007	植物生産生理学特論	22	8	36	4.72	全ての項目で平均を上回った。	この状態を維持するように引き続き努力する。	
4	23660011	昆虫病理学特論	19	6	32	4.49	アンケート回収率は31.6%と昨年度とほぼ同値で、全体回収率より低いものであった。 質問10項目のうち6項目において、科目群平均と同値または上回る結果となり、良好であったと判断する。しかしながら、上述の低いアンケート回答率（6名の回答）からの分析は困難であった。	引き続きアンケート回収率を上げるよう努めるとともに、評価値が低かった双方向性および教員の説明について、授業構成・内容とともにインストラクションを改善したい。	
5	23660016	植物環境調節学特論	23	5	22	4.48	2022年度は多くのカテゴリーにおいて評点が科目群平均をわずかに下回る傾向があったが、これに比べて2023年度は科目群平均と同様、またはわずかに上回るカテゴリーが多くなり、とくに「やりとり」「わかりやすさ」等の講師と受講生との情報交換の手法や内容に関する改善が認められた。	引き続き、講師から受講生への情報提供の方法等の改善を続ける。とくに、授業の成果として「より深い学びへの志向」を促すことについて、さらに評価を上げたい。なお、調査の回収率が低い傾向が続いており、この点を強化する必要に迫られている。	
6	23660103	動物・水産先端科学論	16	2	13	5.00	The response from collected questionnaires is satisfactory. However, collection rate (12.5%) from students is very low.	We need to circulate and request all students from the next year to respond to questionnaires to evaluate the course.	
7	23660105	動物形態形成学特論	14	3	21	4.05	回収数が少ないため、授業評価の結果を正確に分析することは難しいが、概ね妥当な結果と考えている。	着任後初めて担当した大学院の講義であり、手探りの部分もあったが、問いかけを多くして、学生の積極的な参加を促すよう心掛けた。次年度以降は授業評価の inputs を学生に促し、より精度高い解析結果をベースに、講義への反映ができるようにしたい。	
8	23660106	動物生殖生理学特論	14	3	21	4.41	本講義は山内と宗の2名で担当した。概ね全て平均点程度の点数であったが、「主体的学修」が3.7点と低かった。当研究室の学生が一人も受講していなかったことに要因があるものと思われる。	アンケートの回収率が21.7%と低かったことが大きな反省点である。来年度は必ずアンケートを行う時間を作って、講義内に行わせるなどの対策を行う。	
9	23660111	水圏生物資源環境学特論	29	6	21	4.43	全ての評価項目について科目平均前後であった。 授業内容に触発されて関連することを学ぶ、および授業内容についてより深く学ぶ、については、大学院科目でそれぞれが専門性の高い領域で研究を始めている中、幅広い知識を求める科目を評価するにはふさわしい設問ではないと考えている。	上記に挙げた評価項目以外で、平均を下回った双方向性と教員の熱意については、他の教員に情報を共有し、改善を求めたい（本授業は5名で行うオムニバス形式につき）。	
10	23661006	山地防災学特論	24	11	46	4.49	全項目において、ほぼ科目平均と同様の授業評価であった。 アンケート項目の中で最も低い評価結果は主体的学修および学習意欲（評価結果はともに4.3）であったことから、この2点に関連した対策が必要である。	専門外の学生に対しても、一般に注目度の高いトピック（気候変動、SDGs等）を交えた講義を展開する。	
11	23661007	林業経済学特論	12	5	42	4.60	概ね科目群平均以上であった。昨年度よりも主体的学修と学習意欲が高まったという評価が高まった。	熱意は伝わって、学ぶ姿勢も引き出せているが、学生どおしで相互に批判や議論することが出来ていないので、相互議論できるような仕組みを次回以降は考えたい。	
12	23661008	造林学特論	15	7	47	4.88	評価項目のいずれも全体を上回っており、目標は概ね達成したと考えられる。	魅力ある講義にするため、座学・野外実習・全体討論などを組み合わせる予定である。	
13	23661107	土壌学特論	18	12	67	4.6	アンケート回収率は67%であり、設問共-3「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」を除いて、科目群平均と同等あるいはそれ以上の評価であった。下記の2項目は5満点であった：「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」。このため、おおむね好評であったと考えられるが、より学生の興味を引き出す工夫があればさらに改善できると考えられる。	次年度以降、学生が興味を持ちそうな事例や応用例を講義内容に加えることを検討したい。	

令和5年度大学院授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
14	23661108	農業気象学特論	16	9	56	4.47	本講義は修士課程の学生を対象として、教材をIPCC第6次報告WG2として学生の自主的な取り組みに基づく発表を主体とした。講義評価は概ね妥当であると考えられる。	今後もこの方向で考える。	
15	23661111	ポストハーベスト工学特論	23	13	57	4.57	遠隔講義があり、学生と教員とのやりとりの双方向性については平均以下となった。また、学生自らが学ぶ主体的学修についてはエンカレッジが必要である。総合評価は4.8と高くおおむね良好な評価を得た。	主体的学修についてはエンカレッジを行う。	
16	23661305	森林バイオマス科学	12	7	58	4.73	どの評価項目についても科目群平均より数値が高く、受講生からは全体的に高く評価された授業であったと判断される。	来年度も、より良い講義を実施していきたい。	
17	23663005	海洋生命化学特論	19	13	68	4.67	多くの項目の評価が平均以上であったが、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」という項目の評価がわずかに平均を下回っていた。	講義内容に関することに興味を持って貰えるように授業を展開していきたい。	
18	23663007	生物物理化学特論	11	2	18	4.1	回収率が18%であり、判断は難しいが、低い評価について、改善が必要と考えられる。	特に、学生と教員とのやりとりの双方向性について、気を配るように工夫する。	
19	23663115	発酵化学特論	54	14	26	4.57	教員の説明はわかりやすかった、教員は授業に十分準備して臨んでいた、教員は授業に対して熱意を持っていた、という3つの項目が高評価だったことは、授業を頑張って実施したかいがあつたと感じている。	来年はさらに興味深い最新の知見について話していこうと考えている。	
20	23663302	食品加工学特論	28	17	61	4.42	学修マネジメント（双方向性）ならびに主体的学修のポイントが若干低かったことから、学生により自分で考えるように講義中の発言回数を増やしていく必要性について感じている。	主体的学修意欲を高めて双方向性を維持できるように準備したい。	
21	23665001	基礎統計学	25	17	68	4.17	The collection rate of this course is 68% (17/25), greater than one of all courses which is 43.7% (245/561). The average score of this course is 4.17, lower than one of all courses which is 4.49. For 共- 221, 1/17 student answered Strongly disagree, meanwhile 14/17 students answered Agree (7/17) and Strongly Agree (7/17). For 共-67, 1/17 is Strongly Disagree, 2/17 are Disagree, 5/17 are Neutral, 3/17 is Agree, 6/17 are Strongly Agree. These answers are consistent with the answer for 共- 10 in which 3/17 students are not satisfied with the course while 13/17 are satisfied and one is Neutral. MATLAB is taught during the classes but not included in the final exam. There is a comment that MATLAB should be included in the final exam.	Consider to include MATLAB in the final exam.	
22	23665006	農学生命科学	18	10	56	4.57	回収率が55.6%であったので約半数の意見であるが、評価は科目群平均とほぼ同じであったが、双方向性と学習意欲の項目は平均より高かった。	コメントには「トピックに関する基本的な知識を持っていないため、複雑で難しい課題は生徒の理解に役立たない」という意見があり、講師側の「講義で学習した知識を用いて様々な生命現象の解明に取り組んでほしい」という願望は、達成できなかったため、この点を改善したい。	
23	23665007	フードサイエンス・システム論	26	18	69	4.49	本講義の総合評価は科目群平均と同等であった。教員7名によるオムニバス形式の講義で、食科学及び食システムに関する広範囲な基礎的講義である。受講学生のうち食品を学部で学んだことのある学生は数名しかおらず、満足度は科目群平均と同じであったが、基礎とは言え、大学院の講義内容であるため生化学、化学の基礎知識も乏しい専門外の学生には理解が難しかったと思われる。	受講学生の専門性（専門外の学生が多い）を考慮してさらに講義内容の精査を行い、平易な内容で講義を行う必要があると思われる。コメントとしては好意的のものが多かったことから、理解しやすい内容になってきたと思われる。	

令和5年度大学院授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
24	23665010	農業生物学特論(国際コース)	24	18	75	4.36	アンケートの回収率は75%と高かった。10ある評価項目の内、6項目は平均、1項目（双方向性）は上、残り3項目が平均を下回っていた。難易度と学習意欲に関する項目が低く出ている。全体的には、おおよそ平均的な評価となっていた。	難易度についてはオムニバス形式の講義のため、教員間に差異があるのかもしれない。他方、様々な分野の学生が受講する科目のため、基礎的な知識がない状態でよく知らない分野の講義を受けている学生が含まれる。講義の中に、基礎的な学習内容を含めていくようにしたい。	
25	23665011	動物・水産先端科学論(国際コース)	12	7	58	4.32	#N/A	#N/A	#N/A
26	23669904	食品免疫機能分析学特論	24	9	38	4.67	今年度の食品免疫機能分析学特論では、例年の講義資料に基づき、最新の市場動向などの情報を加えて、多糖類などの食品成分の免疫調節作用を中心に、食品の機能性と品質管理法などについて講義を行った。また、外部講師（鹿児島県立短期大学 広瀬直人教授）を招き、学部3年生以上を対象に食品加工と製品開発に関する公開講義（1コマ）を実施した。今回、学生評価アンケート回答率が38%未満と低かったものの、授業評価は総じて平均を上回っており、講義内容や資料等について、概ね支持が得られたと考える。授業出席や受講態度は概ね良好であったが、主体的な学習や疑問・質問を促せるよう意欲を高める方策を講じる必要がある。	次期も同様の講義形式による授業の実施を予定し、講義資料の内容を見直して改善を図り、学生の学習意欲と理解の向上に努める。また、学生に身近なテーマを盛り込み、質問の投げ掛けなど双方向性を引き出す取り組みをしたい。また、講義内容の幅を広げるため、食品の製造・加工、未利用資源の活用方法など異分野の講義枠を設けていきたい。本年度に引き続き、外部講師の招聘も考慮していく。	
27	23660006	作物学特論	14	5	36	4.86	アンケートの回収率が低かったが、総じて科目群平均よりも高い評点となっていた。本講義は双方向性を意識して実施したが、回答者全員が双方向性があったと回答しており、講義の方法などは適切であったと考える。	アンケート内で評点が低かった項目として、難易度と今後の意欲が課題となったと考えており、難易度については、補足スライド等を追加し、意欲については最新のトピックを織り交ぜながら次年度に向けて準備したい。	
28	23660015	作物資源生態学特論	15	5	33	4.86	アンケートの回収率は33.3%であったが、全ての項目で評価平均点は4.3以上であり、受講生は概ね満足していると考えられる。	アンケート回収率および評価平均点を更に向上させるように抗議の改善に取り組むたい。	筆記試験で授業の内容を問うたところ、（講義内容等について）概ね良好な評価を得ている。
29	23661004	樹木生理学特論	14	2	14	4.5	回答数が少ないためあまり参考にならない。	学生にアンケートの回答を呼び掛ける。	
30	23661005	森林計画学特論	18	6	33	4.71	回収率が33.3%と低かった。評価はいずれの項目も科目群平均を上回り、2つの項目（授業の難易度、学修意欲）で4、5であったが、それ以外は4、7と4、8であった。	全体的には講義の内容、進め方は問題ないと判断している。様々な観点からの英語論文に基づいて講義を進めており「授業の難易度」が高いと感じている学生がいると思われるため、より丁寧な解説につとめていきたい。また、学修意欲をより高めるため、重要性や意義についても強調していきたい。	
31	23661304	木質材料工学特論	13	4	31	4	#N/A	#N/A	#N/A
32	23663009	比較免疫学特論	11	2	18	4.35	回収率が低かったため（30%）正確な分析ができなかったが、回答者は概ね高評価であった（いずれの項目も4.5点以上）	高評価であったため、本年度と同様の形式で進める。回収率を上げるよう指導する。	
33	23663307	食品工学特論	13	4	31	4.8	回収率は60%を超えており、まずまずの割合であった。評価は、全10項目のうち1項目が平均より上、それ以外の項目は平均ないしは平均より0.1~0.2ポイント低かった。大学院の授業評価はもともと全体平均がとても高いことを考慮すると、おおよそ平均程度の評価であったと判断される。	特になが、講義内容の難易度について教員間の差が大きいとの指摘があった。本講義は分野や背景の大きく異なる学生が集まっているため、難易度をどう設定するのか難しい点がある。	
34	23665003	生物資源論	32	20	63	4.38	回収率は60%を超えており、まずまずの割合であった。評価は、全10項目のうち1項目が平均より上、それ以外の項目は平均ないしは平均より0.1~0.2ポイント低かった。大学院の授業評価はもともと全体平均がとても高いことを考慮すると、おおよそ平均程度の評価であったと判断される。	特になが、講義内容の難易度について教員間の差が大きいとの指摘があった。本講義は分野や背景の大きく異なる学生が集まっているため、難易度をどう設定するのか難しい点がある。	
35	23665004	地水環境論	20	16	80	4.41	#N/A	#N/A	#N/A

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。